

「第2回アドバイザー会議」における質問内容及び回答内容

調書番号10： 事業名：山梨県学力把握調査事業費

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
小澤アドバイザー	1 学力把握調査費の採点業務の委託料の単価230円が妥当なのかについて、質問しようと思っていたが、説明の中で他社の見積もりを確認したところ300円であったとのことだったので、安心した。 『学びのサイクル改善事業』の名称の意味や事業趣旨については、一般的に理解されているのか。	課長・中込司	1 「改善のPDCAのサイクル」については、最近は一般的になっていると認識している。 ただ、子ども達には『学びのサイクル改善事業』の名称で示すのではなく、『「学び」のふりかえり』という通年使用する冊子を配布し、「学習のふりかえりが出来る状況」と「先の学習内容を見通せる出来る状況」をつくり、『学びのサイクル改善事業』の事業趣旨に沿うように実践している。

「第2回アドバイザー会議」における質問内容及び回答内容

調書番号10: 事業名:山梨県学力把握調査事業費

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
村上アドバイザー	<p>1 『学びのサイクル改善事業』については常に全国(他県)との比較ができるのか。</p> <p>2 独自の学力調査を実施していない県では、本県で実施している『学びのサイクル改善事業』のようなものに置き換わっているのか。</p> <p>3 予算については、採点委託料のみでピックアップ問題や授業改善の資料の作成は含まれていないのか。</p>	課長・中込司	<p>1 『学びのサイクル改善事業』については、本県独自のものなので県内の他校や自校の他クラスとの比較ができる。</p> <p>2 事業の目的が達成したことで独自の学力調査を実施しなくなった県がある。他の事業に置き換わったのかについては把握していない。</p> <p>3 ピックアップ問題や授業改善の資料の作成等については、総合教育センターと義務教育課で連携して作成しており予算化していない。</p>

「第2回アドバイザー会議」における質問内容及び回答内容

調書番号10： 事業名：山梨県学力把握調査事業費

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
小口アドバイザー	<p>1 『学びのサイクル改善事業』は山梨県独自のものか、どこかにモデルがあったのか。</p> <p>2 『学びのサイクル改善事業』と同じことを行っている県はあるのか。</p> <p>3 webシステムによる実施は全県一斉に行っているのか。また、導入はいつからか。</p> <p>4 資料の提示はしていただけなかったが、全国学力状況調査において、市町村ごとの格差は相当あるのか。</p>	<p>義務教育指導監 齊藤功</p> <p>課長・中込司</p>	<p>1 内容については、本県独自のものである。 全国学力状況調査の算数において、記述や思考を問う問題の正答率が本県は低かったことより、全国学力状況調査の問題形式を参考に独自で作成している。『学びのサイクル改善事業』においては、国語と算数において単元ごとに記述で問う問題を多く作成している。</p> <p>2 本県のように、単元ごとにふりかえり問題を実施している県はないと認識している。 全国学力状況調査の対策ドリルなどを作成している県はある。</p> <p>3 全県一斉に実施している。導入は昨年度から行っている。</p> <p>4 小さな学校では、個人が特定されてしまう可能性があるため資料として提示しなかった。これらの学校では、支援が必要な生徒がいるなど、一つの要因で大きく成績が変動してしまうので全体の正確な学力の状況とは言えず公表していない。また、全国学力状況調査の目的も競争ではなく今後の改善が目的である。 公表していない市町村もある状況である。</p>

「第2回アドバイザー会議」における質問内容及び回答内容

調書番号10: 事業名:山梨県学力把握調査事業費

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
小口アドバイザー	<p>5 県教委では把握していないのか。格差はそれほど大きくないのか。</p> <p>6 ある程度の規模の市町村で、経年的に低い傾向がある市町村、経年的に高い傾向のある市町村があるのか。</p> <p>7 市町村ごとに差があるのなら、何か対策が必要ではないか。</p> <p>8 北陸三県、秋田県はなぜいつも成績が良いのか。</p> <p>9 経年的に見ると山梨県の成績は改善している。どのような取り組みの成果だと考えているのか。</p>	課長・中込司	<p>5 県教委では把握している。格差はそれほど大きくない状況である。</p> <p>6 経年的に著しく低いところは少ないが、市町村ごとで比較し若干低いところもある。</p> <p>7 人事異動を通じて、よりよい取り組みを広める対策をとっている。</p> <p>8 「家庭学習」「思考力を伸ばす授業展開の工夫」などと把握しており、本県でも同様の取り組みを進めているが、中々すぐには成果がでない状況である。このような状況の中で、小学校において『学びのサイクル改善事業』を実施し、学力向上に取り組んでいる。</p> <p>9 「授業改善が進んだこと」が大きな要因と考えている。小学校では来年から新しい学習要領が実施されることに向けて、校内研などの各校で取り組みが積極的に行われている。先生方の意識が変わっている。</p>

「第2回アドバイザー会議」における質問内容及び回答内容

調書番号10： 事業名：山梨県学力把握調査事業費

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
小口アドバイザー	<p>10 他県と比較して、全国学力状況調査の結果の改善の度合いは良いのではないか。</p> <p>11 新聞で全国学力状況調査の成績との相関関係する要因として、「英語の事業で生徒と先生のやり取りが多い」「新聞を読む習慣が学力に反映している」とかあった。県独自で研究していることはあるのか。</p> <p>12 今までは全国平均に追いつくことを目指していたが、これからは学力先進県を目指す段階だと思う。県教委としても研究を行い、取り組みを行ってほしい。</p>	課長・中込司	<p>10 中学生に関しては、全国と比較して伸び幅が高いと認識している。</p> <p>11 新聞を教材に使った取り組みを昨年度から行っている。読み取る力と自分の考えを書く力を醸成することを目指している。今年度の中学3年生の全国学力状況調査においても新聞を使った問題が出題されたこともあり、今後も新聞を教材とした取り組みを進めていくことを考えている。</p> <p>12 今年度の全国学力状況調査で英語の試験が行われるにあたり、昨年度にヘッドセットを使った試験の対応を県として行った。一部の学校で機器の不具合があったため、全国学力状況調査の結果は参考値での公表であったが、本県は高い成績をあげることができた。</p>

「第2回アドバイザー会議」における質問内容及び回答内容

調書番号10： 事業名：山梨県学力把握調査事業費

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
小澤アドバイザー	1 理解できない子ども達への対策については、どのように取り組んでいるのか。	課長・中込司	1 非常に難しい課題であるが、授業の中で個別の声かけ、支援員による支援が行われている。また、授業形式としては、友達どうして意見交換をする中でお互いに学び合うような取り組みを行っている。